

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	保健予防課
施策	4	健康づくり・医療の充実	評価 責任者	梅原 格 内線 691-6620
小施策	4-2	保健・予防の推進	評価 シート 作成者	田村 聡 内線 691-6621

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
社会情勢の変化に伴い、うつ病などのこころの病気が増加しており、こころの健康づくりが重要となっている。乳幼児や児童、高齢者などが感染症にかかったり、病気がまん延することを防止する必要がある。		市民が病気にならないように、感染症の発生や流行の予防に努めるとともに、疾病予防のための各種予防接種を行う。また、こころの健康づくりや自殺予防など、健康を保つ活動を推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民		病気にならないようにする。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価		
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析	
指標① 全結核罹患率(人口10万人対)	割合	↘	当初値 (H25) 9.7		R1目標値 8.7	R6目標値 8.0
			・全結核罹患率が低下傾向にあり、常に全国平均(13.9(平成28年度))を下回る状況となっている。	・巡回検診車による結核レントゲン検診の実施、広報等による啓発、医療機関との連携等により、市民に結核予防の重要性を周知したことによるものと考えられる。		
			問題点	⇒		問題の要因分析
			・結核患者における高齢者の割合が全国的に増加傾向にある。	・若年時に感染し、休眠していた結核菌が、高齢化に伴う免疫低下などにより発症することが原因となっている。		
指標② 乳幼児予防接種の接種率	%	↗	当初値 (H25) 92.3		R1目標値 95.0	R6目標値 100.0
			・乳幼児予防接種の接種率が高い水準を維持している。	・予防接種の重要性の啓発や、対象者への個別案内などにより、予防接種及び感染症予防に対する意識向上に繋がったものと考えられる。		
			問題点	⇒		問題の要因分析
			・定められた接種期間に予防接種を受けそびれる人がいる。	・乳幼児期に受ける予防接種(定期接種)の種類が増え、各予防接種を受けるスケジュールが複雑化している。 ・決められた期間内に受け忘れてしまうケースがある。		
指標③ 高齢者予防接種の接種率	%	↗	当初値 (H25) 53.8		R1目標値 57.0	R6目標値 62.0
			・高齢者インフルエンザ予防接種の接種率は、例年50%を維持している。	・高齢者の定期接種は、本人に予防接種を受ける法律上の義務がなく、希望する者が接種を受けることとなっているが、予防接種の重要性の啓発や、対象者への個別案内などにより、感染症予防に対する市民意識の向上に繋がったものと考えられる。		
			問題点	⇒		問題の要因分析
			・高齢者肺炎球菌予防接種が、全国的に接種率が低いことから、令和元年度からさらに5年間延長された。	・高齢者肺炎球菌予防接種に関しては、東日本大震災の際に、岩手県日本赤十字社が県民の高齢者を対象に接種したことがあるが、県事業として実施しており、その時点での接種者を特定できていないため、接種率に現れない接種者がいるため、2巡目となり相対的に接種率としての伸び悩みが発生している。		

今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
★ 加齢に伴う免疫低下はやむを得ない現象であるが、定期的にレントゲン検診を受ける機会を増やすことで、症状の発症・進行を早期に発見し、速やかな再検査、治療に結び付けることで、重症化及び感染を抑制する。	
★ 結核検診の結果、要精密検査となった対象者へ受診勧奨を行う。	
★ DOTS(直接服薬確認療法)事業をさらに推進し、治療成功率を高める。	
★ 結核患者の接触者に対し健康診断を行い、新たな患者の発見に努める。	
★ 結核登録票に登録された患者の精密検査を実施する。	
★ 感染症の拡大防止につなげるため、広報記事への掲載など啓発事業を継続する。	
★ 予防接種率の向上につなげるため、広報記事、個別通知等により周知・啓発を継続する。	
★ 未接種者に対し、乳幼児健診の際、医師や保健師からの指導及び受け忘れないように個別通知を行う。	
★ インフルエンザ予防接種について、0歳から小学生までだった対象者を中学生にまで拡大するほか、1回あたり1,000円だった助成額を2,000円に、さらに、13歳未満は2回、13歳以上は1回まで助成を拡充する。	
★ 令和2年度より、ロタウイルスワクチンが新たに定期予防接種として実施される。年度途中の開始となるため、対象者や対象期間など、受け忘れないよう赤ちゃん手帳の記載、広報記事等により周知・啓発を継続する。	
☆1 おたふくかぜ予防接種について、助成に係る検討を行う。	
★ 高齢者の定期接種については、対象者への広報を強化する。個別案内や医療機関でのポスター掲示等により制度を周知する。	
★ 希望する人が受け忘れることがないように、広報記事、個別通知等により周知・啓発を継続する。	